

Yokohama City University Hospital
Junior Resident Application Requirements

2026



公立大学法人
横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

横浜市立大学附属病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター

2026 年度

臨床研修医募集要項

Contents

- 4 横浜市立大学附属 2 病院における
臨床研修プログラム
- 11 たすきがけ研修の協力病院
- 16 地域医療研修における協力施設
- 17 待遇
- 18 応募の方法

横浜市立大学 2つの附属病院の連携による 臨床研修

横浜市立大学附属病院（横浜市唯一の特定機能病院：1991年7月開設）と横浜市立大学附属市民総合医療センター（以下、センター病院と略します：2000年1月開設）は、公立大学法人横浜市立大学の附属病院として運営されている病院です。

臨床研修に関しては、昭和40年代から自由ローテート研修を取り入れており、これまで多くの優れた医師を輩出してきました。

平成16年に新臨床研修制度が導入されてからも、人気が高く全国から研修医が集まっています。

この横浜市立大学臨床研修病院群では、高度先進医療をめざす臓器別の診療体制に加えて、基本的診療能力を十分に修得できるようプログラムを工夫しています。その1つが大学病院と協力病院を1年ずつ研修する「たすきがけ研修」です。協力病院は、すべて神奈川・東京の中核病院で地域に密着した医療（救急も含む）を提供しています。また、2年目の地域医療研修では、神奈川・横浜の他に沖縄、鹿児島、長崎、高知、三重、福島、北海道等の中小規模の病院や診療所で総合的な研修を行うこともできます。

プログラムは、研修医の希望を取り入れつつできるだけ自由な内容にすることを基本方針としています。さらに23年度から救急研修が大幅に改善されました。1次から3次まで多様な救急患者の診療に当たり実践力を身につけることができます。

卒後の研修は、初期の2年間で完結するものではありません。本学の専攻医（シニア・レジデント）制度でも魅力あるプログラムを多数提供しています。生涯を通じたキャリアを見据えた卒業後、初めての2年間を過ごすことで、より充実した生涯学習が可能となるでしょう。

皆さんと、横浜で共に学び、働けるようお待ちしております。

横浜市立大学附属病院 臨床研修センター
稲 森 正 彦

横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床教育研修センター
平 和 伸 仁

研修の特徴

- 40年以上にわたる歴史ある自由ローテート研修体制
→各診療科の受入れがスムーズ
- 2つの大学病院と21の協力病院（神奈川・東京の中核病院）による「たすきがけ研修」
→一般的な病気から高度先進医療まで幅広く研修
- 研修医の立場に立った可能な限り自由なプログラムの編成ときめ細かな指導とサポート体制
→自由な雰囲気の中でのびのびとした研修
- 全国から横浜の地に集まる研修医仲間、研修修了後の充実した専門医研修
→将来、幅広い診療仲間のネットワーク形成
- 1次から3次まで多様な救急疾患に対応する能力修得、医療安全を重視し患者本位の医療に基づいた研修
→緊急時に落ち着いて自らの責務を果たせるプロフェッショナルの養成



横浜市立大学附属病院、附属市民総合医療センター 研修の流れ

初期臨床研修

- 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
- 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
- 横浜州市市民病院
- 独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院
- 横浜市立みなと赤十字病院
- 藤沢市民病院
- 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
- 恩賜財団済生会 横浜市南部病院
- 恩賜財団済生会 横浜市東部病院
- 社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院
- 南東北グループ 医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院

協力病院
P13~P18

- 国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
- 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
- 小田原市立病院
- 大和市立病院
- 茅ヶ崎市立病院
- 日本赤十字社 大森赤十字病院
- 一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院
- 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 足柄上病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院
- 公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立市民病院

附属病院

附属市民総合
医療センター

後期研修 専門医養成プログラム

明日を担う医師へ



横浜市立大学附属2病院における 臨床研修プログラム

研修プログラム

	コース名	1年目の研修病院	2年目の研修病院		コース名	1年目の研修病院	2年目の研修病院
基本プログラム (附属病院)	F I	附属病院	センター病院	基本プログラム (センター病院)	C I	センター病院	附属病院
	F II	附属病院	協力病院		C II	センター病院	協力病院
	F III	協力病院	附属病院		C III	協力病院	センター病院
産科プログラム	附属	附属病院	附属病院※	産科プログラム	センター	センター病院	センター病院※
小児科プログラム	附属	附属病院	附属病院※	小児科プログラム	センター	センター病院	センター病院※
基礎研究医プログラム	附属	附属病院	附属病院				

※希望により、附属病院、センター病院だけでなく協力病院小児科または産婦人科での研修も可能です。

4つの研修プログラム

横浜市立大学附属2病院の臨床研修プログラムには各々の病院の**基本プログラム**と、産婦人科医または小児科医を目指す各々の病院の**産科・小児科プログラム**の4つがあります。マッチング登録で**併願可能**です。

研修の2年間で、必修分野として、1年目に内科24週間、救急12週間の研修をします。1年目から2年目で、外科、小児科、産婦人科、精神科、一般外来をそれぞれ4週以上の研修を行います（8週以上の研修を行うことが望ましい）。さらに2年目に4週以上の地域医療研修を行います。

1 基本プログラム 定員41名(附属)、48名(センター)

【特色】

基本的診療能力を身につけるとともに、自分の適性を確かめ3年目以降の専門研修に円滑に移行するためのプログラムです。研修2年間のうち1年間に附属2病院どちらかで研修します。研修病院の組み合わせにより、6つのコースに分かれます。

コースは附属病院またはセンター病院にマッチ後、各自の希望に添って決定します。なるべく希望に沿うよう調整しますが、定員の関係で別のコースになる事もあります。

◆協力病院については11ページ参照

2-1 産科プログラム 定員2名(附属病院)

【特色】

将来、産婦人科医を目指し、周産期医療を担う人材を育成するためのプログラムです。

2年目の研修では、専門医養成プログラムを先取りした内容を研修し、専門医としてのステップを早くから踏み出すことも可能です。

2-2 小児科プログラム 定員2名(附属病院)

【特色】

将来、小児科医として小児医療・小児保健を担う人材を育成することを目的としたプログラムです。

日本小児科学会が掲げる「小児科医は子どもの総合医である」という基本姿勢、ならびに小児科専門医の医師像に示された5つの視点、小児科専門研修における到達目標を研修初期から念頭に置き、研修を行います。

2-3 産科プログラム 定員2名(センター)

【特色】

基本的診療能力を身につけるとともに、将来、産婦人科を担う人材を育成するためのプログラムです。尚、研修修了後、産婦人科以外の道に進むことも可能です。基本的には基本プログラムと同じです。

2-3 小児科プログラム 定員2名(センター病院)

【特色】

将来、小児科医として小児医療・小児保健を担う人材を育成することを目的と研修プログラムです。疾患の診断・治療のみならず、健常小児の成長・発達の理解、保護者とのコミュニケーションの重要性、さらに小児が成人に達するまでの支援（成育医療）をも学んでもらうことを目的として研修を行います。

【基本プログラムとの違い】

（附属病院・センター病院）希望により2年目も大学病院にいる研修医は自由選択の機会に関連病院の産婦人科または小児科に短期研修に出ることが出来ます。

必修分野のうち、産科プログラムは産婦人科を12週以上・小児科を4週以上、小児科プログラムは小児科を12週以上・産婦人科を4週以上研修します。

附属2病院1年目研修

内科を24週、救急を12週、外科、小児科、産婦人科、精神科または選択科（自由選択）をローテーションします。

(1)内科

附属病院では9つの診療科から選び、4～12週ずつ、計24週研修します。

センター病院では5つの疾患別センターと4つの専門診療科から4～12週ずつ、計24週研修します。

附属2病院の研修では、各々の患者さんは複雑な病態を有し学ぶことが多いと思います。救急疾患や重症例も多く経験できます。大学病院の学術的な環境の中で、研鑽を積み、積極的に学会発表等にもチャレンジしてください。

附属病院の内科

名称	
血液・リウマチ・感染症内科	内分泌・糖尿病内科
呼吸器内科	脳神経内科・脳卒中科
腎臓・高血圧内科	消化器内科
循環器内科	肝胆膵消化器病学
臨床腫瘍科	

センター病院の内科

名称（センター）	名称（診療科）
リウマチ膠原病センター	血液内科
炎症性腸疾患センター	腎臓・高血圧内科
心臓血管センター	内分泌・糖尿病内科
消化器病センター	脳神経内科
呼吸器病センター	

(2)救急

救急医療の社会的使命を認識し、将来の専門性にかかわらず日常診療で遭遇する疾病や病態に適切に対応できる基本的診療能力を身につけることを目的とします。附属2病院共通のプログラムとなります（8～9ページ参照）。

また協力病院の研修プログラムにおいて可能とされる場合には、麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とみなすことができます。

(3)外科

附属病院では、**A.消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科・心臓血管外科、小児循環器**または、**B.消化器外科、乳腺外科**から選択します。

附属病院の外科

名称
A. 消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科、心臓血管外科、小児循環器
B. 消化器外科、乳腺外科

センター病院では、外科系診療科【心臓血管センター※¹、呼吸器病センター※¹、消化器病センター※¹、炎症性腸疾患(IBD)センター※¹、リウマチ膠原病センター、乳腺・甲状腺外科、整形外科、泌尿器・腎移植科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成外科】から選択します（※¹ 外科研修における推奨診療科）。

センター病院の外科

名称	
心臓血管センター※ ¹	整形外科
呼吸器病センター※ ¹	泌尿器・腎移植科
消化器病センター※ ¹	耳鼻咽喉科
炎症性腸疾患(IBD)センター※ ¹	脳神経外科
リウマチ膠原病センター	形成外科
乳腺・甲状腺外科	

※¹ 外科研修における推奨診療科

(4) 小児科

附属病院では小児科を、センター病院では小児総合医療センターを選択します。

(5) 産婦人科

附属病院では産婦人科を選択します。

センター病院では総合周産期母子医療センター（産科）、婦人科から選択します（※いずれの診療科を選択した場合も、研修期間中に両診療科の研修内容を含みます）。

(6) 精神科

附属病院では精神科を、センター病院では精神医療センターを選択します。

(7) 一般外来

附属2病院の内科、外科、小児科、総合診療科において、また地域医療や協力病院での研修において、並行研修またはブロック研修で一般外来の研修を行います。

ローテーション例

※ 1 年目で不足している必修科は 2 年目で研修

パターン	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
附属1	腎臓・高血圧内科			呼吸器内科			救急			消化器外科	精神科	小児科	産婦人科
附属2	内分泌・糖尿病内科	眼科 (選択科)	消化器・ 一般外科	小児科	産婦人科	血液・リウマチ ・感染症内科		救急			脳神経内科・ 脳卒中科		
産科・小児科	産婦人科	小児科		救急			消化器内科		循環器内科		臨床腫瘍科		精神科
センター1	腎臓・高血圧内科			呼吸器病センター ・内科			救急			心臓血管C ・外科	小児総合 医療C	婦人科	精神医療C
センター2	内分泌・糖尿病内科	皮膚科 (選択科)	消化器病C ・外科	小児総合 医療C	消化器病センター・ 内科		救急			母子医療C ・産科		血液内科	
産科・小児科	小児総合医療センター		婦人科	リウマチ膠原病センター ・内科			脳神経内科			救急			精神医療C

附属2病院2年目研修

(1) 地域医療研修(→16ページ)

(2) 選択科 (自由選択)

以下の選択肢から選んで、40～48週になるよう組み合わせてください。ローテーションは、相談により随時変更も可能です。
産科・小児科プログラムでは協力病院の産婦人科または小児科での短期たすきがけ研修も可能です。

附属病院

血液・リウマチ・感染症内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中科、消化器内科、肝胆膵消化器病学、精神科、小児科、臨床腫瘍科、消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科・心臓血管外科、小児循環器、消化器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科、児童精神科、病理診断科、病理部、救急科、集中治療部、内視鏡センター、緩和医療科、医療安全管理部

センター病院

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、リウマチ膠原病センター（内科、整形外科）、炎症性腸疾患（IBD）センター（内科、外科）、精神医療センター、心臓血管センター（内科、外科）、消化器病センター（内科、外科）、呼吸器病センター（内科、外科）、小児総合医療センター、血液内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器・腎移植科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、内視鏡部、形成外科、臨床検査科、病理診断科、集中治療部、緩和ケア内科、感染制御部

(3) ローテーション例 (基本プログラム、産科・小児科プログラム共通)

パターン	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
附属1	血リ感	呼吸器内科	精神科	消化器内科	児童精神科	脳神経外科	救急	地域医療	消化器外科				
附属2	脳神経内科・脳卒中科						地域医療	脳神経外科					
附属3	救急科	地域医療	皮膚科	精神科(必修科)	病理診断科、病理部			肝胆膵	放射線科				
産科・小児科	病理診断科、病理部	地域医療	麻酔科	産婦人科			形成外科	臨床腫瘍科			集中治療部		
センター1	内分泌・糖尿病内科	地域医療	病理診断科		整形外科			腎臓・高血圧内科		リウマチ膠原病センター・整形外科			
センター2	心臓血管センター・外科			地域医療	心臓血管センター・内科			臨床検査科	麻酔科		集中治療部		
センター3	脳神経内科				脳神経外科	地域医療	精神医療センター			放射線診断科	呼吸器病センター・外科		
産科・小児科	総合周産期母子医療センター		IBD外科(必修科)	皮膚科		形成外科	地域医療	眼科	耳鼻咽喉科	小児総合医療センター			

救急初期臨床研修



横浜市立大学医学部救急医学教室
横浜市立大学附属病院 救急科
横浜市立大学附属市民総合医療センター
高度救命救急センター

救急医療は市民の突然の傷病発生の際の健康保持を担う最後の砦です。傷病者が医療機関を自らの意思で選定できない状況において、私たちは、地域のどこで倒れても最高水準の救急医療を提供することを目指しています。横浜市立大学の二つの附属病院は、横浜市南部保健医療圏100万人の急な傷病に対応する救急医療機関の役割を担っています。市民総合医療センター（センター病院）の高度救命救急センターは3次救急医療機関として、また附属病院救急科は2次救急医療機関としてそれぞれ救急医療を行っています。特にセンター病院は周辺地域や神奈川県全体の重症救急対応の最後の砦の一つとして機能しています。横浜市立大学ではこの二つの附属病院を中心にした地域救急医療システム全体を活用して、「点」ではなく「面」での地域救急医療研修プログラムを提供します。加えて研修内容をより標準化したものを提供できるように、初期救急から重症救急まで、必要な研修項目をモジュールにして提供しています。今までに、JATEC（外傷初期診療）、ICLS（心肺蘇生）、MIMMS（英国災害医療対応）、DMAT（災害医療支援）などに基づく、よりコンパクトで短時間に知識・技能の基本が得られるような手法によってプログラムを展開してきました。もうひとつの特徴は成人教育法の導入です。皆さんの研修がより効果的になるように、スタッフが成人教育法を駆使して獲得目標やその達成程度を明示し指導していきます。昨今、救急医療は地場産業といわれていますが、皆さんとともに地域の救急医療の一端を担えることを心から楽しみにしております。

《プログラムの特色》

ハイブリッドかつカスタマイズ可能な研修システム

救急初期臨床研修は、3次救急医療機関であるセンター病院救命救急センターと2次救急医療機関である附属病院救急科のハイブリッドシステムで行います。また特に2年次は各々のニーズに合わせたテーラーメイド研修が可能です。

1) センター病院 高度救命救急センター

横浜市救急医療体制の3次救急医療機関の要であり、地域救急医療の「最後の砦」として緊急性の高い患者さんや重症患者さんの救急診療を24時間体制で行っています。一つの大きな特徴として、横浜市重症外傷センターとして、横浜市の重症外傷患者が集約化されるため他の病院では診ることができない症例を経験できます。災害時には災害拠点病院の任を担っており、災害研修が可能です。またドクターカーにより、傷病発生現場からの早期診療開始を実践しており、初期研修医も病院前診療に携わります。また重症外傷、重症呼吸不全、心血管救急、急性期脳卒中、産婦人科救急、小児救急、切断指など専門性の高い領域の救急患者の初期診療機会が得られ、ECMOなどの体外循環装置を用いた重症患者のクリティカルケア（集中治療）を研修できるところがもう一つの特徴です。専任の救急科医師を中心に、脳神経外科・整形外科・形成外科・外科・内科・精神科の各診療科の医師が密に連携しながら、最新の治療法やエビデンス（科学的・医学的根拠）・ガイドラインに基づいて教育にあたっています。オフザジョブトレーニングとして、20のレクチャーとジャーナルクラブ、救急超音波セミナーも行っています。また上級医の指導の下、市民向け救急蘇生セミナーでインストラクションを行います。

2年目の選択研修では、各研修医の先生に適したテーラーメイド研修を提供しています。将来の志望診療科や個人の経験・希望を考慮した個別の研修プログラムをメンターと共に事前に作成し、自分で設定した目標達成を目指して研修を行います。例えば、内科系診療科に進むので内科系重症患者の初期診療と集中治療管理を中心に学びたい、外科系診療科に進むので外傷患者の初期診療と外科的手技・手術を中心に学びたいといった要望も可能です。

2) 附属病院 救急科

附属病院は2次救急医療機関として救急搬送される患者と独歩来院の患者の対応をします。集中治療を要する患者もAcute Care Unitを用いて管理し、一般病棟での入院患者も対応します。

初療から入院 ▶ 集中治療 ▶ 一般病棟 ▶ 退院/転院

と救急搬送された患者を最初から最後まで自身で診ることができることを最大の特徴としています。そこには研修終了後にスタッフとなってから必要となる救急外来での初療対応から入院管理（一般病棟から集中治療まで）や転院調整の仕組み、流れなどを実際に経験することできます。

附属病院では急変時の対応ができるように、全ての先生にICLS（Immediate Cardiac Life Support）に参加してもらい取得することを行っています。また、毎週の英語カンファレンスにより、どのようなシチュエーションになっても自分の意見をプレゼンできる力を身につけるよう学びます。

《プログラム内容》

プログラムによって、研修期間が違います。

1年目を附属病院で研修する場合は、附属病院救急科8週間、センター病院高度救命救急センター4週間の研修です。

1年目をセンター病院で研修する場合は、センター病院高度救命救急センター8週間、附属病院救急科4週間の研修です。

1 年次：救急研修プラン①

附属病院救急科4～8週
1次～2次救急
(独歩・救急車)

センター病院
高度救命救急センター
4～8週
2次～3次救急
(救急車)

2 年次オプション：救急研修プラン

a:附属病院救急科
4～8週
1次～2次救急
(独歩・救急車)

b:センター病院
高度救命救急センター
4週～
2次～3次救急
(救急車)
テーラーメイド研修
(原則 2人/月まで)



※以下は、経験可能な症例の疾患内訳と症例数の目安です。

- センター病院高度救命救急センター（8週の目安）：外来初期診療および入院症例のクリティカルケア
重症体幹・骨盤・四肢外傷：35例（内 手術12例）、顔面外傷・切断指：15例、頭部外傷・脳卒中：30例、熱傷：15例、急性腹症：10例（内 手術2例）、その他の疾病救急（呼吸不全、循環不全、中毒、環境異常など）：60例、心停止（CPA）：50例
- 附属病院救急科（4週の目安）：外来初期診療
頭部・顔面軽症外傷：25例、その他の四肢小外傷：25例、交通外傷（頭部・顔面・小外傷を除く）：13例、薬物過量内服：5例、意識障害：5例、めまい：12例、失神：2例、気管支喘息発作：3例、腹痛：25例、発熱（感冒・腎盂腎炎など）：10例、頭痛（意識障害を除く）：8例、電解質異常：3例

多くの皆さんの研修参加をお待ちしております（HPは⇒<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~er-urahp/>）

基礎研究医プログラム（横浜市立大学附属病院のみ）

○特色

優れた基礎医学研究医を養成するため、基礎医学に意欲がある研修医を対象に、臨床研修と基礎研究の両立できる環境を提供するプログラムです。

一方で臨床部門における必修科・選択科研修では、基本的診療能力を身につけるとともに、患者の立場や意志を尊重し、患者の安全を第一に考え、その時代において最良の医療が行えるよう、プライマリ・ケアの習熟に加えて高度先進医療の現状と限界、さらに倫理や安全についても学ぶことができます。

○研修指導体制

臨床部門では、臨床研修指導医講習会を修了した卒後7年目以上の医師が全診療科におり、その指導医を中心とした屋根瓦方式にて指導を受けます。看護職、医療技術職などコ・メディカルも臨床研修に協力しています。

基礎医学部門では、各教室に基礎医学研究歴7年以上の医師が配置されており、かつ組織横断的に指導できる体制が敷かれています。

○ローテーション例

●1年目研修

内科24週、救急12週、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週または選択科（自由選択）をローテーションします。

●2年目研修

1年目に必要な期間研修を行わなかった必修診療科、地域医療研修（4週以上）、選択科（自由選択）、基礎医学（24週）をローテーションします。

基礎医学研修を開始する前に臨床研修の到達目標の到達度の評価を行ないます。

*一般外来研修は2年間を通じて内科・外科・小児科・地域医療研修中に並行研修にて行います。

*円滑な研究キャリアの継続のために大学院進学をお勧めしています。

	第1 ターム	第2 ターム	第3 ターム	第4 ターム	第5 ターム	第6 ターム	第7 ターム	第8 ターム	第9 ターム	第10 ターム	第11 ターム	第12 ターム	第13 ターム
1年目	内科 24 週						救急科 12 週			外科、産婦人科、小児科、精神科 各 4 週			
2年目	地域医療研修 4 週 自由選択 24 週							基礎医学 24 週					

<選択科>

血液・リウマチ・感染症内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、脳卒中科、消化器内科、消化器内科（肝胆膵）、救急科、小児科、産婦人科、精神科、児童精神科、麻酔科、集中治療部、消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科、心臓血管外科、小児循環器、消化器外科、乳腺外科、臨床腫瘍科、緩和医療科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、皮膚科、眼科、放射治療科、放射線診断科、形成外科、リハビリテーション科、病理診断科、病理部、医療安全管理部、内視鏡センター

<基礎医学>

組織学、神経解剖学、循環制御医学、生理学、生化学、分子生物学、薬理学、微生物学、免疫学、分子病理学、臓器再生医学、遺伝学、臨床統計学、法医学、医学教育学、公衆衛生学

臨床研修センター（附属病院）／臨床教育研修センター（センター病院）

附属2病院の研修センターは研修医の採用から修了認定までの一貫したマネジメントと研修プログラムの編成や指導体制の強化に努めています。皆さんが心おきなく研修に励むことができるよう、専任の医師と職員が研修医をサポートし、健康管理から研修医室の整備まで研修環境の改善に努めています。

取り組み内容

病院見学学生（エクスターン）の受け入れ
研修の実施と管理、各種イベント企画運営
指導医養成講習会等による指導医の質の向上

初期臨床研修プログラムの編成
専門医養成プログラムの開発と管理

附属病院スタッフ紹介

センター長 稲森 正彦（プログラム責任者【基本】・【基礎研究医】、医学教育学教授）
副センター長 日下部明彦（副プログラム責任者、准教授、総合診療医学）
秋山 浩利（副プログラム責任者、診療教授、消化器外科、シミュレーションセンター長）
藤田 浩司（プログラム責任者【産科】、副プログラム責任者【基本】・【小児科】・【基礎】、臨床研修センター准教授）
西村 謙一（プログラム責任者【小児科】、副プログラム責任者【基本】・【産科】、助教）
事務局 中山 峻輔、西原 実伶、猪野 真里（人事担当）

センター病院スタッフ紹介

センター長 平和 伸仁（プログラム責任者【基本】、病院長補佐、准教授、腎臓・高血圧内科部長）
副センター長 坂田 勝巳（准教授、脳神経外科部長）
副センター長 工藤 誠（副プログラム責任者、副病院長、准教授、呼吸器病センター部長）
竹内 一郎（副プログラム責任者、病院長補佐、教授、高度救命救急センター部長）
佐藤 渉（副プログラム責任者、講師、消化器病センター外科）
志賀健太郎（プログラム責任者【産小】、講師、小児総合医療センター部長）
小畑聡一郎（副プログラム責任者、診療講師、総合周産期母子医療センター産科）
須田 顕（副プログラム責任者、講師、精神医療センター部長）
金岡 美和（副プログラム責任者、講師、皮膚科部長）
事務局 峰晴 嘉政、齋藤 悠一、柳生 伊津子（人事担当）



附属病院研修医室



センター病院研修医室

新しい臨床研修制度が導入されてから、附属2病院ではプログラムの向上に努めてきました。まず、神奈川県近傍の中核病院と連携して豊富な指導医のもとで指導を受けることができるようになりました。平成23年度には救急研修のプログラムを大幅に改善しました。また、2年目は県内の診療所や北海道、福島、三重、和歌山、高知、長崎、鹿児島県の病院で中身の濃い地域医療研修を受けることができるように工夫をしています。さらに、皆さんの学びや憩いの場となる研修施設の充実も行われ研修環境も良好となっています。ぜひ、横浜市立大学病院群で初期研修を受け、キャリアの基礎を築いてください。

- ホームページ <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~clinical/wp/>（附属病院）
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/medical/clinical-training/index.html>（センター病院）
- Facebook <https://www.facebook.com/yokohamarinshokensyu>（附属病院）
<https://www.facebook.com/ycu.medicalcenter.resident>（センター病院）

たすきがけ研修の 協力病院

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

所在地：〒238-8558 横須賀市米が浜通 1-16
病床数：740 床



■病院からのメッセージ

当院は100年以上の歴史を誇り、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、病院機能評価機構(一般病院 2:機能種別版評価項目3rdG:Ver2.0)の認定、急性期特定加算、救命救急センターの認定を受けているほか、各種学会の教育指定病院となっており、横須賀・三浦地区の基幹病院として24時間365日、高度急性期医療を提供しております。

内科系・外科系ともに多くの指導医と豊富な症例に恵まれほとんどの診療科を網羅していますので、当院での初期臨床研修では質・量とも十分な症例を経験できます。また、救急当直では初期研修医がファーストタッチを担当するので、より主体的に症例を経験でき、実践的な臨床能力を磨くことができます。



国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院

所在地：〒236-0037 横浜市金沢区六浦東 1-21-1
病床数：565 床



■病院からのメッセージ

横浜南部および逗葉医療圏の地域中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携指定病院、災害拠点病院などの認定を受け、高度急性期医療を担っています。臨床研修では、医療に必要な知識、技能、社会性を身につけた思いやりを持った人間性豊かな医師の養成を目指しています。アットホームな環境と教育熱心な指導医のもとで、多くの疾患や救急を経験でき、実践的な初期研修を送ることを保障します。熱意のある研修医大歓迎です！

横浜国立大学 横浜市立市民病院

所在地：〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号
病床数：650 床



■病院からのメッセージ

2020年5月1日に新病院に生まれ変わった当院は、365日24時間対応の救急体制、総合的ながん対策の充実・強化、小児救急医療の充実と周産期医療、災害時の機能強化、ICU・NICUなど重症系集中治療室の拡充、手術室、分娩室の増室などを図り、これまで以上に高度急性期を中心とする先進的な医療サービスを提供しています。当院の研修では、日常よく遭遇する common disease から高度医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。また、各分野の専門医に consultation ができ、直接の指導を受けることができます。チーム医療を中心とした研修環境を提供しておりますので、やる気のある研修医の先生をお待ちしております。

独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院

所在地：〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211
病床数：650 床



■病院からのメッセージ

私達は、次の時代に求められる臨床研修病院とは、「医師としてのプロフェッショナリズムを次の世代の若手医師に伝えていくことができる病院」ではないかと考えています。初期研修医の皆さんに、後期研修医や常勤医が真剣に疾患や患者と向かい合っている姿をみせることができる病院であり続けること、それが求められているのではないかと思います。当院が果たしてそのように見えるかどうか、一度見学

にきていただき、当院ではこのような考えを具現化できていると感じることができたら、是非当院で初期研修をする道を選んでください。お待ちしております。

※附属病院のみ選択可能です。

横浜市立みなと赤十字病院

所在地：〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1
病床数：624 床



■病院からのメッセージ

当院は、将来の専門分野にかかわらず、全ての患者の初期診療が適切に行えらるとともに、医療の社会的な意義を自覚し、生涯にわたって研鑽を怠らない医療人となることを研修目標として掲げています。年間1万台を超える救急車を受け入れる救命救急センターでの充実した研修はすべての研修医の皆さんに経験いただいているところですが、内科系および外科系診療科にも多数の症例および指導医を擁し、救急医療

と同じく充実した研修環境を提供しています。また、指導医養成講習会を自院で開催するなど指導医の能力向上にも努めています。さらに、モーニングセミナーなど研修医のニーズに応じたセミナーを医師教育研修センターがバックアップするなど、生涯にわたる研鑽につなげるようなサポートを行っています。

藤沢市民病院

所在地：〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1
病床数：536 床



■病院からのメッセージ

藤沢市民病院は、湘南東部医療圏における公的地域中核病院として地域医療支援病院の承認を受けるとともに、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、周産期救急医療中核病院、災害拠点病院などの役割も担っています。年間の救急車受け入れ数は約1万件あり、多くの症例に携わる機会があります。当院が目指す「心のこもった安心できる医療体制」と「患者さんとの信頼関係を高める医療」は、優秀な臨床医を志す皆さんに必ず満足いただける初期研修であると確信しています。

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター

所在地：〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2
病床数：490 床



■プログラム責任者からのメッセージ

当院は横浜市南西部地域中核病院として地域の高度急性期医療を担っており、救急隊との専用ホットラインを持つ脳神経センターと循環器センター、ドクターカーが走る救命救急センター、内科・精神科も連携する周産期母子医療センターも有しています。当院の初期臨床研修では、各科で多くの症例経験を積むことが可能であり、患者さんに信頼される臨床医としての基本的な資質と専門医取得に向けた基礎を身に付けることができます。また、当院では「なぜそう考えたのか？」という結論に至るまでの思考過程のプレゼンテー

ションやディスカッション能力も重視しているため、疾患の多面性や病態を多角的に捉えることの重要性も早期から経験することができます。研修医の人数も適切であり、各診療科の垣根が低くスタッフに気軽に相談することができるので、非常に研修しやすい環境です。自ら積極的に診療に関わる意欲のある方を歓迎いたします。

恩賜財団済生会 横浜市南部病院

所在地：〒234-0054 横浜市港南区港南台 3-2-10
病床数：500 床



■病院からのメッセージ

当院は横浜市南部地域の地域中核病院・小児拠点病院として2次救急を担っています。当直では内科系・外科系の上級医指導のもと研修医が患者さんを first touch で診ているので、幅広い症例が経験できます。1年次は主に内科24週、救急8週、必修科【外科、小児科、産婦人科、麻酔科】16週、選択4週を研修します。2年次では救急4週、精神科(外部施設)4週、地域研修4週、自由選択40週(10ターム)を研修し、診療科も31科(2024年4月より乳腺外科が開設)と豊富です。研修医専用の研修医室もあり、充実した研修を送っていただけるよう環境を整えてお待ちしております。

※精神科は1年次後半から研修の場合あり。

恩賜財団済生会 横浜市東部病院

所在地：〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉 3-6-1
病床数：562 床



■病院からのメッセージ

2007年3月に開院した横浜市東部医療圏の地域中核病院(562床)です。横浜市重症外傷センターを擁する救命救急センター、小児科救急、周産期救急、精神科救急など充実した救急医療とがん、脳卒中・循環器疾患などに対応した高度専門医療を柱に、地域ニーズに応えながら診療科や職種の枠を超えた新しいチーム医療を展開しており、プライマリ・ケアで求められるアプローチを磨くために十分な症例と機会があります。最前線の救急医療の経験を望む、やる気のある人に当院は最高の研修環境を提供できると思います。熱意ある皆さんの参加を歓迎します。

国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

所在地：〒254-8502 平塚市追分 9-11
病床数：421 床



■病院からのメッセージ

平塚共済病院は平塚市を中心とする地域住民・地域医療の中核医療機関として、急性期総合医療を担い、地域医療支援病院・神奈川がん診療連携指定病院として質の高い救急医療とがん診療を中心とした高度専門医療に力を注いでいます。救急センター、脳卒中センター、心臓センターは24時間体制で活動しており、年間約7,000件の救急車を受け入れています。プライマリ・ケアから重症例まで、豊富な臨床例に繰り返し first touch であたることで、実りある研修になったと先輩達からも評価を受けています。研修医専用の研修医室にはプライベートデスクがあり、書籍や荷物を入れるロッカーやソファ・電子レンジ・テレビ・冷蔵庫・Wi-fiも完備されています。

国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院

所在地：〒247-8581 横浜市栄区桂町 132
病床数：430 床



■病院からのメッセージ

横浜栄共済病院は、2次救急病院であり、特にプライマリ・ケアに力を入れております。救急科を受診する患者数は、年間約10,000名、救急車の台数は年間約6,000台にのぼります。初年度夏から始まる当直業務では、初期臨床研修で最重要視されるプライマリ・ケアについて、「内科系」「外科系」「脳卒中」「心疾患」の4人の当直医と共に、幅広くさまざまな救急疾患について実地で学ぶことができます。高齢者の外傷救急(骨折等)や運動器疾患に対する医療需要が年々高まっていることから、整形外科領域の体制を拡充しました。また、診療科間の垣根が低く、多職種とのコミュニケーションも円滑に行われており、働きやすい環境です。是非お待ちしております。

小田原市立病院

所在地：〒250-8558 小田原市久野 46
病床数：417 床



■病院からのメッセージ

小田原市立病院は、神奈川県西部の基幹病院として、26 科を標榜するほか、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携病院等の指定を受け、高度医療、急性期医療を担う総合病院です。このため、初期救急医療から高次救急医療までの様々な症例や手技の経験ができ、医師としての基本的な診療能力を学ぶことができます。また、隣接地の宿舎を利用いただけるほか、院内に単独の研修医室を用意し、研修医に専念する環境を整えています。

大和市立病院

所在地：〒242-8602 大和市深見西 8-3-6
病床数：403 床



■病院からのメッセージ

大和市立病院は昭和 30年に開設以来、地域の基幹病院として市民の皆様の健康維持・増進を図り、地域の発展に貢献してきました。病床数 403床、診療科32科、常勤医師 93名で、良質かつ適切な医療サービスの提供に日々尽力しています。地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、DMAT指定病院の指定を受けており、平成 26年には救急棟の拡充、救急体制の強化、内視鏡室や化学療法センターの一新など、県央二次医療圏での公的中核病院として役割を果たしています。研修医からは少人数教育であることと、市中病院ならではのコモンディーズをしっかりと学べるのが高く評価されています。

茅ヶ崎市立病院

所在地：〒253-0042 茅ヶ崎市本村 5-15-1
病床数：401 床



■病院からのメッセージ

茅ヶ崎市立病院は、湘南東部医療圏の中で公的地域中核病院として地域医療支援病院の承認を受けるとともに、救急指定病院、周産期救急医療システム参加病院、災害拠点病院としての役割も担っています。当院の基本理念である「健やか・共創」のもと、充実しているプライマリ・ケア診療のほとんどを経験できます。また、令和5年度には、放射線治療機器リニアックの更新、手術支援ロボットの導入をしました。充実した環境のもと、満足できる初期研修生活を送ることができると考えています。

日本赤十字社東京都支部 大森赤十字病院

所在地：〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-1
病床数：340 床



■病院からのメッセージ

東京都大田区の地域中核病院です。救急搬送患者数は年間平均約6,500件あり、特に心疾患・脳血管障害などの救急症例が豊富にあります。臨床研修の目標の一つである2次救急診療に習熟できます。一年次には外傷・熱傷などの3次救急を東京科学大学病院救急救命センターにて、二年次での精神科は東京都立松沢病院での研修です。チーム医療を学び、指導医の指導のもと様々な臨床手技も経験でき、実践的な経験を積むことができます。

一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院

所在地：〒252-0802 藤沢市高倉 2345
病床数：330 床



■病院からのメッセージ

藤沢湘南台病院は急性期病棟(210床)、ICU(8床)、地域包括ケア病棟(30床)、回復期リハビリテーション病棟(33床)、療養病棟(30床)、緩和ケア病棟(19床)を有する藤沢市北部に位置するケアミックス型の病院です。また敷地内には藤沢訪問看護ステーション、居宅介護支援センターを配置し、患者様・利用者様の病態、ライフステージに応じた様々な医療・介護サービスを提供しています。初期臨床研修に関しては、プライマリ・ケアから各科専門診療まで、熱心な指導医のもとで実践的な研修を行っています。研修医室には、個人用机、個人用タブレット端末、ロッカー室、仮眠室、シャワー室を用意し、十分な環境が整っています。

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 足柄上病院

所在地：〒258-0003 足柄上郡松田町松田惣領 866-1
病床数：296 床



■病院からのメッセージ

神奈川県立足柄上病院では、県西部の2次救急病院として救急車年間約2,800件を受け入れおり、様々な症例や手技を経験できます。当院では、「臨床医はスペシャリストである前にジェネラリストであるべきである」という考え方を基に、内科、外科、救急など豊富なプライマリ・ケア領域の疾患を中心に臨床に必要な能力を身につけるための研修を行います。また、個々の初期臨床研修医の皆さんの希望も可能な限り取り入れて、充実した研修になるように配慮しています。また、環境面では研修医室や、研修医専用の当直室を用意しています。このほか、病院から徒歩3分の場所に職員用公舎を備えており、研修医の皆さんも利用が可能です。

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ケ谷中央病院

所在地：〒240-8585 横浜市保土ケ谷区釜台町 43-1
病床数：236 床



■病院からのメッセージ

当院は全国57施設の地域医療機能推進機構の病院群の一角を占め、その理念に基づき地域に安心の医療を提供しています。許可病床数236床の急性期病院で18診療科を有し、横浜市地域医療支援病院に指定されています。また、18学会から認定施設の認証を受けています。医師は横浜市立大学の各教室から派遣され、大学病院ならびに地域基幹病院、診療所と密接な連携を保ちながら良質かつ安全な医療を提供しています。また、二次救急医療機関として昼夜を問わず救急医療にも貢献し、加えて内視鏡外科技術に応用した外科系治療、インターベンショナル技術を用いた内科系治療に加え、悪性疾患に対する薬物治療、透析治療、地域に密着した総合診療など幅広く知識、技術を習得できる教育体制を確立しています。

公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立市民病院

所在地：〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2
病床数：339 床



■病院からのメッセージ

当院は、横須賀西部・三浦地区の基幹病院として急性期医療を中心に担っています。診療科は約30科と多岐にわたり、各専門領域の診療、救急医療、がん・緩和医療などそれぞれが質の高い医療を提供しています。また、地域医療支援病院、災害拠点病院などに指定され、高度の専門性を持った疾患から Common Disease まで幅広い疾患を経験することができます。常勤医師は、主に横浜市立大学からの医局派遣医師であり、医学部学生の院外研修先にもなっています。横浜市立大学との協力体制が構築されており、研修修了後の専門研修先として横浜市立大学各医局への入局紹介もスムーズです。当院での初期臨床研修を通じて医師として成長してゆくための確固たる基盤を身につけて頂きたいと思います。

社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院

所在地：〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
病床数：287 床



■病院からのメッセージ

地域の基幹病院として common disease を多く経験することができるのが特徴です。初期研修のうちから、一般的な愁訴・疾患に対しそれぞれの初期診断・初期対応を行う機会に恵まれていると思われます。当院の理念『良質・親切・信頼される医療の実施』を念頭に、研修医は将来どのような分野に進むにせよ、医学・医療の社会ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、この初期研修期間中に幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につけることを目的としています。

※センター病院のみ選択可能です。

南東北グループ 医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院

所在地：〒215-0026 神奈川県川崎市麻生区古沢都古 255
病床数：563 床



■病院からのメッセージ

当院は地域医療への貢献、高度先端医療の実践、最良の安心を得られる医療を目標に掲げています。救急患者を積極的に受け入れており、さまざまな救急疾患に対応できる能力を養うことができます。定位放射線治療機器 CyberKnife®、ロボット手術機器 da Vinci®、128 列マルチスライス CT、PET-CT、3 テスラ MRI など最先端の医療機器を備え、高度な先進医療や予防医学を実践し、一般診療の

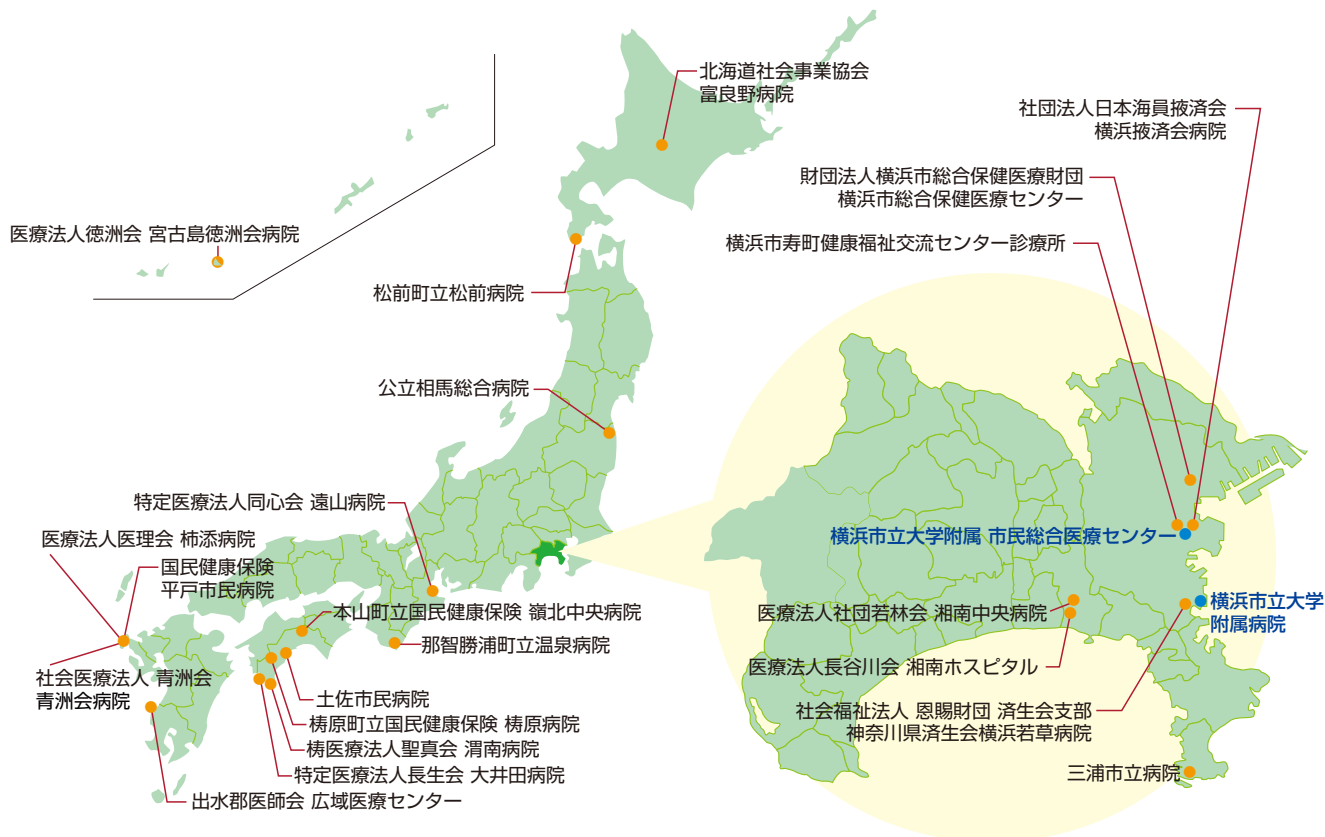
ほか救急医療やがん診療にも貢献しています。

症例数が多く、さらに初期研修医の数に対し指導医数の数が多いため、手厚い指導をさせていただきます。

※附属病院のみ選択可能です。

地域医療研修における協力施設

横浜市立大学附属 2 病院の 2 年次には、地域医療研修として次の協力施設において 4 週以上研修します。



2026年度の協力施設(予定)

協 力 施 設 名	所 在 地
財団法人横浜市総合保健医療財団 横浜市総合保健医療センター	〒 222-0035 横浜市港北区鳥山町 1735
社団法人日本海員救済会 横浜救済会病院	〒 231-0036 横浜市中区山田町 1-2
社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 神奈川県済生会横浜若草病院	〒 236-8653 横浜市金沢区平潟町 12-1
医療法人社団若林会 湘南中央病院	〒 251-0056 藤沢市羽鳥 1-3-43
医療法人長谷川会 湘南ホスピタル	〒 251-0047 藤沢市辻堂 3-10-2
三浦市立病院	〒 238-0222 三浦市岬陽町 4-33
北海道社会事業協会 富良野病院	〒 076-8705 北海道富良野市住吉町 1-30
松前町立松前病院	〒 049-1503 北海道松前郡松前町字大磯 174-1
公立相馬総合病院	〒 976-0011 福島県相馬市新沼字坪ヶ迫 142
特定医療法人同心会 遠山病院	〒 514-0043 三重県津市南新町 17-22
那智勝浦町立温泉病院	〒 649-5331 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字天満 1185
本山町立国民健康保険 嶺北中央病院	〒 781-3601 高知県長岡郡本山町本山 620
医療法人聖真会 渭南病院	〒 787-0331 高知県土佐清水市越前町 6-1
特定医療法人長生会 大井田病院	〒 788-0001 高知県宿毛市中央 8-3-6
梶原町立国民健康保険 梶原病院	〒 785-0623 高知県高岡郡梶原町川西路 2320-1
土佐市民病院	〒 781-1101 高知県土佐市高田町甲 1867
国民健康保険 平戸市民病院	〒 859-5393 長崎県平戸市草積町 1125-12
医療法人医理会 柿添病院	〒 859-5152 長崎県平戸市鏡川町 278
社会医療法人青洲会 青洲会病院	〒 859-4825 長崎県平戸市田平町山内免 612-4
出水郡医師会広域医療センター	〒 899-1611 鹿児島県阿久根市赤瀬川 4513
医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院	〒 906-0014 沖縄県宮古島市平良字松原 552-1
横浜市寿町健康福祉交流センター診療所	〒 231-0026 横浜市中区寿町 4-14

待 遇

※附属病院、附属市民総合医療センターの待遇

●身 分

公立大学法人横浜市立大学非常勤職員（臨床研修医）

●報 酬

- 賃金月額：209,100 円
- 期末手当あり
- 宿日直手当あり
- 超過勤務手当あり
- 通勤手当別途支給
- 住宅補助あり（2 病院共通） 上限 3 万／月※賃貸の場合に限る

●福利・厚生

全国健康保険協会、厚生年金、雇用保険

横浜市厚生会に加入可（各種福利厚生、割引のサービスを受けることができます）

研修医室、ロッカー室あり

●健康管理

健康診断（T-SPOT を含む）、HBs 抗体陰性の場合はワクチン接種

夜間従事者検診、放射線業務者検診

インフルエンザワクチン、その他感染性ウイルスワクチン接種

（一部自己負担あり）

針刺し事故対策など臨床研修センターで研修医の健康管理を実施

●休 暇

年次休暇（1 年目 16 日）、夏季休暇（5 日）、服忌休暇など

●医師賠償保険

個人において加入してください

アルバイトは禁止されています

医師法 第16条の2

診療に従事しようとする医師は2年以上（一部略）臨床研修を受けなければならない。

医師法 第16条の5

臨床研修を受けている医師は臨床研修に専念し、その資質の向上を図るように努めなければならない。

〈附属 2 病院臨床研修医設置規程〉

- 臨床研修医は、勤務時間においては病院において職務に専念しなければならない。
- 臨床研修医は、研修期間中の兼職を禁止する。

応募の方法

※基礎研究医プログラムの応募に関しては附属病院臨床研修センターホームページを参照下さい。

応募資格

原則として 2026 年に医師免許取得見込みの者で、医師臨床研修マッチングに参加する者

※いわゆる「地域枠」として医学部に入学した者については、臨床研修期間中に指定された地域や病院での従事要件が課せられている場合がありますので、横浜市立大学附属2病院臨床研修プログラムへの参加がこの要件に反しないことを各自で必ず確認してください。反する場合には応募できません（この点について、本学から都道府県等に照会する場合があります）。

募集人員

プログラム名	定員(予定)
附属病院基本プログラム	41 名
附属病院産科プログラム	2 名
附属病院小児科プログラム	2 名
附属市民総合医療センター基本プログラム	48 名
附属市民総合医療センター産科プログラム	2 名
附属市民総合医療センター小児科プログラム	2 名

出願方法

希望するプログラムを記入して出願してください。基本プログラムにおいてコース別の出願はできません。

マッチングにおいては、附属2病院の基本プログラム、産科・小児科プログラムともに併願可能です。

マッチングにより所属病院が決定した後、各自の希望と採用試験の成績をもとにコースを決定します。

採用試験

書類審査、オンラインでの面接試験

試験日程

令和7年8月上旬から9月上旬

出願書類

- ①採用試験受験申込書・履歴書
- ②大学卒業見込証明書または大学卒業証明書
- ③成績証明書
- ④CBT（医科）の試験結果（コピー可）

採用

マッチング決定後に採用内定を通知します。

医師国家試験に合格した医師免許取得者を正式に採用します。

11月中旬～12月上旬にコース選択のための説明会を実施します。

研修開始日

2026年4月1日採用となります。

出願書類提出・問合せ先

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

横浜市立大学附属病院

医学・病院統括部 職員課人事担当

電話 045-787-2729(直通)

Eメール resident@yokohama-cu.ac.jp

